

八戸学院大と同大短期大学部、八戸工業大、デーリー東北新聞社は7月21日、デーリー東北新聞社メディアホールで中高生と保護者向けの「進学お役立ちセミナー」を開催しました。4人の講師が登場し、奨学金や大学資金のため方、地元で学ぶ魅力を紹介。参加者は大学進学に向けた心構えを学びました。

進学お役立ちセミナー

中・高校生と保護者が知っておくべき大学進学

地元の大学に進学する魅力について

八戸学院大学の学科について紹介します。短期大学部幼児保育学科は来年度、これまでの2年コースに加えて3年コースを新設します。短期大学部介護福祉学科は、国家資格の介護福祉士の取得を目指す学科です。大学は地域経営学部と健康医療学部が2学部があります。地域経営学部は八戸圏域の価値を高めることがミッションで、そのための教育をしています。公務員系の就職にも力を入れている学部です。

健康医療学部人間健康学科



八戸学院大学
学長補佐・健康医療学部教授
三本木 温 さん

入学後の不安な時期 家族や友人が支えに

は、健康科学を軸とした学びが特徴です。体育の先生や養護教諭、国家資格の社会福祉士などを目指す学生がいます。認定心理士の資格を取得できることも魅力の一つです。

最後に同部看護学科。看護師の資格取得まではさまざまなルートがありますが、大学で学ぶメリットの一つは給与水準の高さです。保健師や助産師を目指すこともでき、養護教諭2種免許の取得にもつながります。

地元大学に進学する魅力についてですが、大学に進学する4月、学生は高揚感ある状態で入学してきます。同時に、新たな環境でかなりストレスがかかっているのです。何もやる気が起きず、自分が何をしに大学に来たのか分からなくなるといことも現実にはあります。

大学生は平均で入学者の2%が退学するというデータがあり

ます。理由として一番多いのは進路変更で、次が先ほど申し上げた状態である「不適応」です。親元を離れて一人暮らしをする、孤独になったり、誰にも相談できなかつたりするのです。

地元に残っている場合、友人関係、あるいは保護者も含めた家族がセーフティネットになり得ると感じています。

これから超高齢化社会、人口減少、少子化が加速していきま^{ブリーカ}す。加えて、世界を見渡すと、VUCAという言葉が指すように不確実な状態です。そういった時代に必要な力は、▽新たな価値を創造する▽対立やジレンマを克服する▽責任ある行動をとれる―という三つで、これらは「生き延びる力」です。都会でも地方でも、大学がこの力を身につけるためのカリキュラムを提供していかなければなりません。